

- 問1 東南アジアに位置する、赤道付近の多くの島々から構成される国について説明した文として正しいものを、次の語句の中から一つ選びなさい。
この国は東南アジアで最大の人口を抱えており、国民の約9割がイスラム教を信仰しているという特徴があります。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. ベトナム 2. マレーシア 3. フィリピン 4. インドネシア
-
- 問2 世界の主要国の統計を比較した際、人口が14億人を超え中国と並び世界最大級の規模を持ちながら、一人当たりの国民総所得（GNI）が中国やブラジル、日本などと比較して依然として低い水準にあり、同時に著しい経済成長を続けている国はどこか、名称を答えなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. オーストラリア 2. インド 3. 中国 4. ブラジル
-
- 問3 アメリカ合衆国のヒューストンと、インドのベンガルールのように、経度が約180度離れている都市間で業務を分担するビジネスモデルがあります。このように、大きな経度差がある地域間で連携することによって得られる、業務上の最大の利点は何ですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 使用する標準時が一致しているため、リアルタイムでの会議が容易な点 2. 昼夜の逆転を利用することで、二十四時間体制で効率的に業務を継続できる点 3. 地理的な距離が近いこと、航空機を用いた人の往來を低コストで行える点 4. 緯度が共通しているため、気候による作業効率への影響を最小限にできる点
-
- 問4 中国における1980年から2050年までの年齢別人口構成の推移をまとめた統計において、将来的にその割合が低下し、製造業などにおける労働力不足を招くと懸念されている「15歳から64歳」の人口区分を何と呼びますか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 年少人口 2. 生産年齢人口 3. 非労働力人口 4. 老年人口
-
- 問5 中国における農産物の生産地域の特色について述べた文として、自然環境（気候）との関係からみて最も適切なものを選びなさい。 (2024年 福島県公立入試 類似)
1. 降水量の多い長江流域など南部では稲作が盛んで、比較的乾燥した華北平原など北部では小麦の生産が盛んである。 2. 地形が平坦な全土で米と小麦が均一に生産されており、地域による明確な作り分けは見られない。 3. 寒冷な気候である北部で米の二期作が行われ、温暖な南部で小麦の栽培が集中している。 4. 内陸部の乾燥地帯で大規模な稲作が行われ、沿岸の潤潤な地域で小麦の輸出用栽培が行われている。
-
- 問6 西アジアに位置するある国の2017年の輸出統計において、輸出総額は約1,570億ドルとなっており、輸出品目では自動車は14.9%で最も多く、次いで機械類が13.9%、衣類が9.6%を占めています。また、最大の輸出相手国がドイツであるこの国はどこですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. アラブ首長国連邦 2. トルコ 3. サウジアラビア 4. ロシア
-
- 問7 東南アジアの諸地域において、現地の気象局が季節風（モンスーン）の到来を公式に発表し、それがニュースとして大きく報じられる背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 東京都公立入試 類似)
1. 季節風が吹くと気温が氷点下まで下がり、冷帯のような厳しい冬が始まるため 2. 一年中安定して吹き続ける風を利用した、風力発電の開始時期を決定するため 3. 降水量の増減が農作物の作柄を左右し、市場の物価に大きな影響を与えるため 4. 夏季に降水が極端に少なくなる地中海性気候への対策を講じる必要があるため
-
- 問8 東南アジアのタイにおける自動車工業の特色について、工場の進出状況と主な輸出先を組み合わせた説明として正しいものはどれですか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
1. タイの地元資本による企業を中心に、政府の保護政策のもとで国内市場向けに生産している 2. 日系企業を中心とした工場が集中しており、ASEAN諸国など近隣のアジア市場を中心に輸出している 3. ヨーロッパ系企業が内陸部に工場を建設しており、陸路を利用して中国やインドへ輸出している 4. アメリカ系企業が主に進出しており、北米自由貿易協定を利用してアメリカやカナダへ輸出している
-
- 問9 ベトナムやインドネシアといった国々とシンガポールを比較した統計において、日本企業の進出数と現地の経済状況の関係性を説明したものととして、正しいものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
1. 平均賃金が高い国ほど、安価な労働力を求める日本の製造業の進出が活発になる傾向がある 2. 平均賃金が高い国ほど、生産コストの削減を目的とする日本の製造業が進出しやすい傾向がある 3. シンガポールのように平均賃金が高い国では、低賃金の国に比べて工場などの進出数が急増している 4. 日本企業の進出数は、現地の平均賃金の高さに関わらず天然資源の産出量のみで決定される
-
- 問10 中国の地域別の経済状況について、上海や広東などの沿海部では一人あたり平均年収が約3万～4万円に達しているのに対し、甘粛や貴州などの内陸部では約1.7万～2万円にとどまっているという統計があります。このようなデータが示している中国の課題として、正しい記述はどれですか。 (2016年 岩手県公立入試 類似)
1. 経済特区などが集中し発展を遂げた沿海部と、内陸部との間で所得の格差が広がっている。 2. 中国全土で一人あたり平均年収が均一化されており、地域による経済的な特徴は見られない。 3. 内陸部の経済成長が著しいため、沿海部から内陸部へ労働力が大量に移動している。 4. 内陸部は伝統的な重化学工業の拠点であるため、沿海部の商業都市よりも所得が高い傾向にある。
-
- 問11 アメリカ合衆国のシリコンバレーとインドのベンガルールという2つの都市の間では、情報技術（ICT）関連の研究開発において密接な協力関係が築かれています。インドのベンガルールが開発拠点として選ばれている理由のうち、両地点の経度の違いという地理的な条件を最大限に活用した説明として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. 英語が公用語の一つであるため、アメリカの技術者と円滑に意思疎通ができること 2. 両地点が地球のほぼ反対側に位置し、約12時間の時差を利用して24時間体制で業務を継続できること 3. 両地点が同じ北半球の中緯度帯に位置しており、季節の変化に伴う需要の変動が一致すること 4. インドの労働賃金がアメリカ合衆国に比べて安価であり、開発コストを大幅に削減できること
-
- 問12 1986年に「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる政策を導入して市場経済化を進めたベトナムでは、2000年から2018年にかけて日系企業の進出が急速に拡大しました。この背景にある、ベトナムの経済状況と日本との関係についての説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
1. 一人当たりの国内総生産がタイやマレーシアより低く、安価で豊富な労働力を求めて多くの日本企業が進出した。 2. 進出日本企業数が急増した理由は、ベトナムが東南アジアで最大の人口を持ち、最大の輸出相手国が日本に限定されているためである。 3. 主な輸出相手国は中国とアメリカに限定されており、日本との貿易額はドイモイ政策の開始以降、減少傾向にある。 4. 一人当たりの国内総生産がすでに日本と同水準に達したため、日本企業は製造拠点としてではなく、主に高級品の販売市場として進出している。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 インドネシア	東南アジア最大の人口を擁するインドネシアは、赤道直下に位置する世界最大の群島国家です。宗教面では、人口の約90%がイスラム教徒であり、世界最大のイスラム教徒人口を抱える国としても知られています。地理的な特徴と宗教的な特徴をセットで覚えることが重要です。
問2	答え 2 インド	インドは2023年に中国を抜いて世界一の人口になったと推計されており、巨大な市場と労働力を背景に高い経済成長を続けています。一方で、人口が非常に多いため、国全体の経済規模（GDP）は大きくても、一人当たりの国民総所得（GNI）で見ると、先進国や同じ新興国である中国・ブラジルなどよりも低い水準に留まっているのが特徴です。オーストラリアは人口が少なく、一人当たりの国民総所得が非常に高いという逆の特徴を持ちます。
問3	答え 2 昼夜の逆転を利用することで、二十四時間体制で効率的に業務を継続できる点	地球の自転により、経度が約180度離れた地点間では昼夜がほぼ逆転します。この時差を活用し、一方の国が夜の時間帯に、地球の反対側にあるもう一方の国で業務を引き継ぐことで、二十四時間休むことなく作業を進めることが可能になります。特にソフトウェア開発などの情報通信技術（ICT）分野でこの仕組みが活用されています。
問4	答え 2 生産年齢人口	15歳から64歳までの層は「生産年齢人口」と呼ばれ、社会の経済活動を支える中心的な存在です。中国では長年続いた一人っ子政策などの影響で少子高齢化が進んでおり、この層の人口減少が将来の経済成長を抑制する要因として問題視されています。
問5	答え 1 降水量の多い長江流域など南部では稲作が盛んで、比較的乾燥した華北平原など北部では小麦の生産が盛んである。	中国の農業は、年降水量の違いによって生産地域が明確に分かれています。一般に「南稻北麦」と呼ばれ、温暖湿潤な南部（長江流域以南）では米の生産が、年降水量が少なく乾燥している北部（華北や東北地方）では小麦などの畑作が盛んに行われています。
問6	答え 2 トルコ	トルコはアジアとヨーロッパの結び目に位置する地理的条件を活かし、製造業が発展しています。伝統的な繊維産業による衣類の輸出に加え、近年はヨーロッパ市場向けの自動車や機械類の生産拠点となっており、ドイツなどの欧州諸国と強い経済的結びつきを持っています。サウジアラビアなどは原油が主力の輸出項目となるため、この統計データとは一致しません。
問7	答え 3 降水量の増減が農作物の作柄を左右し、市場の物価に大きな影響を与えるため	熱帯に位置する東南アジアでは、季節風がもたらす雨が農業、特に稲作にとって極めて重要な水源となります。季節風の到来時期や雨の量は、農産物の収穫量、ひいては経済全体や人々の生活物価に直結するため、社会的に非常に高い関心を持たれています。
問8	答え 2 日系企業を中心とした工場が集中しており、ASEAN諸国など近隣のアジア市場を中心に輸出している	タイの自動車工業は、1960年代以降の日系企業の進出によって大きく発展しました。タイは「アジアのデトロイト」とも呼ばれるほどの生産能力を持ち、生産された車両はASEAN域内の関税撤廃を背景に、アジア諸国へ効率的に輸出されています。欧米系企業や地元資本ではなく、日本の自動車メーカーが生産の中心的役割を担っている点が大きな特徴です。
問9	答え 2 平均賃金が低い国ほど、生産コストの削減を目的とする日本の製造業が進出しやすい傾向がある	企業の海外進出において、現地の「平均賃金」と「進出企業数」には密接な関係があります。特に、大量の労働力を必要とする製造業にとっては、賃金の低さは国際的な価格競争力を維持するための重要な条件となります。したがって、賃金の高いシンガポールよりも、賃金が抑えられているベトナムやインドネシアの方が、工場を構える日本企業にとって魅力的な進出先となり、進出数の伸びが大きくなります。
問10	答え 1 経済特区などが集中し発展を遂げた沿海部と、内陸部との間で所得の格差が広がっている。	統計データから、上海や広東といった「沿海部」の所得が、甘粛や貴州などの「内陸部」の約2倍近くに達していることがわかります。これは、1970年代末からの経済改革において沿海部が優先的に開発された結果、地域間で顕著な経済格差が生じていることを示しています。この格差を是正するため、近年では「西部大開発」などの内陸部振興策も行われています。
問11	答え 2 両地点が地球のほぼ反対側に位置し、約12時間の時差を利用して24時間体制で業務を継続できること	アメリカのシリコンバレー（西経120度付近）とインドのベンガルール（東経75度～90度の間）は、経度で見ると地球のほぼ反対側に位置しています。この地理的關係により、アメリカで業務が終わる夕方の時間がインドでは始業前の早朝にあたります。この時差を利用して、アメリカ側での進捗をインド側が引き継いで夜通し作業し、翌朝に再びアメリカ側へ戻すという「二十四時間対応」の開発体制が可能になります。賃金の安さや言語も重要な要因ですが、地理的条件（時差）を問われた場合は、この24時間体制の実現が正解となります。
問12	答え 1 一人当たりの国内総生産がタイやマレーシアより低く、安価で豊富な労働力を求めて多くの日本企業が進出した。	ベトナムは1986年のドイモイ政策導入により、社会主義の体制を維持しながら市場経済へと舵を切り、外資を積極的に受け入れてきました。タイやマレーシアなどの周辺国と比較すると、一人当たりの国内総生産はまだ低い段階にありますが、その分労働コストが抑えられるため、多くの日本企業が新たな生産拠点（工場）として進出を強めています。主な輸出相手国にはアメリカ、中国、日本が名を連ねており、世界的な製造拠点としての存在感を増しています。